

つき BON の「誤解をおそれず言わせてもらえば」

めざす会幹事 大津寄章三

鬼ヶ島の子鬼

知人から「ご紹介まで」として面白い情報が届いた。

岡山の中学校で「もし桃太郎の鬼に子供がいたとしたら、鬼退治は正義か」という道徳の授業が行われたという。朝日新聞の記事はこうである。



12月上旬、岡山県津山市の市立西中学校。2年生の道徳の授業で、担任教諭の谷本薫彦さんが生徒へ問いかけた。

「もし桃太郎が鬼にも家族がいることを知ったら、どうしたいと思うだろう」

授業ではまず、昔話の「桃太郎」を学ぶ。おじいさんとおばあさんから「鬼が村を荒らして困る」と聞いた桃太郎が鬼ヶ島に渡り、鬼たちを退治して物語は終わる。そこへ谷本さんが鬼の子ども「鬼太郎」というキャラクターを示す。

生徒からは「やっぱり退治するしかなかった」という意見の一方、「家族がいると分かれば、村に帰ろうと思うはず」という声も出た。次に、どんな選択肢があれば桃太郎が鬼を殺さずに済むのか議論すると、「鬼に農業を教えたら村を荒らしに来ない。鬼ヶ島に農機具を持っていこう」といった発想も生まれた。

「なぜ桃太郎には最初、鬼退治という選択肢しか浮かばなかったんだろう」という谷本さんの質問に、「鬼を悪者と決めつけてしまったから」と答えた小原彩希さん(14)。授業後、「自分も決めつけたことがあったな、と気づいた」と話した。

なかなか楽しそうな授業である。生徒もよく知っている昔話であり、活発に意見も出たであろう。私もできれば教案を手に後ろで参観したかった。

さて、この話の元ダネには覚えがある。数年前新聞にでていた「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました。」という泣いている子鬼をあしらったキャッチコピーである。

はて、と疑問が浮かぶ。鬼ヶ島の鬼たちって桃太郎に殺されたのだろうか。私は桃太郎や三匹の家来にさんざん痛めつけられ、降参して宝物を差し出した鬼のイメージしかない。まあしかし現代の昔話はずいぶんとマイルドに再編成されているので、本来の桃太郎では鬼の多くは殺されていた、というストーリーだったのかもしれない。

しかし、である。この子鬼の言葉からわかるのは
○子鬼はあとで桃太郎という「加害者」の名をだれか(生き残った鬼?)から聞いた。

○子鬼は桃太郎の「襲撃時」はまだ幼く、よく事態がのみこめていなかった。

○少なくとも子鬼は殺されなかった。

○子鬼はいまだに桃太郎に復讐心を抱いている。

ということである。多分成長した子鬼はふたたび村を襲い、桃太郎たちにリベンジを図ることになろう。



その鬼たちに頑是ない子供がいたらどうなのだろう、というのは今の価値観からすると当然戦意を鈍らせる。

偵察に行ったキジが「桃太郎さん、鬼どもは子供たちと夢中で遊んでいますよ。今がチャンスです」などと報告したとしたら、桃太郎は頭を抱えてしまうかもしれない。奇襲をかければ子鬼たちにも犠牲が出るからである。かといって宣戦布告して「非戦闘員は後方に下がらせよ」などと言おうものなら、もともと劣勢の桃太郎軍などあつという間に壊滅してしまうにちがいない。

いずれも現代的価値で昔話を判断するからそういうジレンマに陥るのである。平穏な村人の生活を一瞬にして破壊し、殺戮と強奪を長年ほしいままにしていたのはどこのだれなのか。それに対する反撃が悪のはずはない。「七人の侍」の村人の応戦に疑問を投げかける人はおそらく皆無であろう。桃太郎の場合、それが村落防衛戦ではなく遠征による奇襲攻撃だったというだけである。

いや、現代でも同じである。凶悪事件で死刑判決が出た場合であっても、被告に幼い子供がいるかどうかは審理の対象にはならない。米軍はかつてわが国に無差別空襲を繰り返し、多くの女子供の命を平然と奪った。今もミャンマー国境ではロヒンギャの人々は子供たちも含めて弾圧の対象となっている。

敵国民には容赦はしない、非戦闘員を巻き込みたくなければとっとと降伏すべきだし、それがいやなら自国でその安全を工夫せよ、というのが世界の大勢である。日本でも都市部の子供たちは集団疎開した。

深読みをしてみると、朝日がこれを取り上げているということにも何か作為を感じる。親が極悪非道であったにせよ、その子には何の罪もない、というロジックは何かを連想させる。そう、朝鮮学校である。

ミサイルを撃ち続ける北朝鮮は確かに許し難い、しかし日本に住む北の学生に罪はなく、自治体が補助金を削減することは差別であり人権侵害にあたる、という主張を彷彿とさせるではないか。

この問題については当ブログで何度も書いたので繰り返さないが、今なお彼らは金ファミリーの偉大さとやらを繰り返し巻き返し学ばされ、それに反する情報や価値観などはすべて虚偽だと教え込まれているのである。もしこの「子鬼」たちを何とかしたいというのなら、それは一刻も早く朝鮮学校という洗脳組織から脱出させ、まともな教育をする学校に入れてやることでしかない。

当然朝鮮学校は兵糧戦で立ち枯らせるべきであろう。前川喜平前事務次官などはもっと税金をつぎ込んで存続を図れと主張していたらしいが、生徒の未来も国の行く末も無視した「こころなきわざ」と言っている。

桃太郎の話に戻れば、鬼どもはおのれの悪行の報いは子鬼たちにもふりかかってくる、と知るべきなのである。子鬼たちもイノセントではない。村人から無体にも奪ってきた財でぬくぬくと暮らしてきたからである。今さら桃太郎の奇襲を受けて「子鬼まで手にかけるとは何と卑怯な」という鬼がいたとしたら噴飯ものである。先に、そして何度も老若男女を手にかけたのは一体だれなのか。

授業を受けた生徒は「鬼を悪者と決めつけてしまったから」「自分も決めつけたことがあったな、と気づいた」と答えたという。もし村人たちがこの授業を受けたとしたらどう思うであろう。

昔話を題材にする発想は悪くない。しかし、桃太郎はあくまで勧善懲悪、勇気と友情、そして宝物を奪い返して村人に分かち合うという博愛の物語なのである。下手な調味料を加え、別物の教材にすることは控えたほうがよくはないか

この新聞広告の趣意は「ほんとうに“めでたしめでたし”でいいのか」という問題提起である。つまり従来鬼に苦しめられていた村人の視点からとらえていた英雄譚を、鬼という加害者の立場からとらえてみよう、という発想である。いじめに例えれば、いじめた側にも言い分はあるという視点であろう。



しかし、「鬼」という生き物は実在せず、それは一種の「悪の権化」を象徴する存在である。であるからこそ何のためらいもなく桃太郎は鬼退治に出かけ、優しいおじいさんたちもキビ団子をこしらえてこれを見送り、まるで関係のないイヌやサルもその壮挙に同意して死地に付き従うことになるのである。

(平成30年1月2日&3日)

親学 ～ 主体変容の教育改革

親が変われば子供も変わる

12月19日に東温市中央公民館で、一般財団法人 親学推進協会の杉本哲也先生ご指導による「親学学習会」を開催いたしました。東温市議16名のうち9議員がご参加下さり、また近隣市議会の親学にご縁のある4議員など22名のご参加がございました。

初めて親学の話をお聞かせいただいた東温市議の方々からは素晴らしいご感想をいただきました。

次回は下記の要領で開催されます。東温市教育委員会の後援を申請中でございます。



日時：平成30年2月25日（日）13：30～16：30

会場：東温市中央公民館 2階 会議室

第1研修 13:30～15:00

「親子の自己肯定感を高める方法」

第2研修 15:00～16:30

「親学の理念をアドバイスに活かす方法」

受講料：1コマ 3000円 2コマ 5000円

講師の杉本先生のプロフィールは下記のとおりでございます。

昭和54年、大阪生まれ。3児の父。京都大学大学院工学研究科化学工学修了。味の素株式会社 ライフサイエンス研究所勤務。京都大学アメリカンフットボール部OB 松下政経塾27期。山田宏議員の政策秘書もつとめられる。現在、一般財団法人親学推進協会講師・社団法人実践の人の家理事・幼年国語教育会理事・大阪市住吉区子ども教育専門会議委員を務める。

中身の濃い話を、「面白くなかったらお代はお返しいたします!」と私（青井）が言いたいくらい愉快的話しぶりで展開していかれます。その次は4月上旬の予定でございます。

良書ご紹介 ～認知症は治る！

医学博士・国際医療福祉大学大学院教授 竹内孝仁徳著



『水をたくさん飲めば、ボケは寄りつかない』

講談社+α新書 初版2013年6月

認知症には、根底に水不足がある。その治療とケアは、水に始まり、水に終わる。これが40年間、認知症にかかわってきた私の結論である。私は65歳を超えた高齢者には、1日1500ccの水を飲むように勧めてきた。水不足が解消されると、意識がはっきりし、異常な言動がなくなるばかりではない。高齢者特有の便秘が解消し、お通じもよくなり、結果的に体調がよくなる。さらに十分な栄養をとり、適度な運動を行うと、認知症患者のほとんどに完治、もしくは著しい改善が見られる。私はこれを『水、メシ、クソ、運動、4つのケア』と呼んでいる。（「序章」より）

『ボケは脳の病気ではない～だから防げる、治せる』

マキノ出版 初版2014年2月

65歳以上の4人に1人が認知症とその予備軍。そのうえ、認知症を治せる医師はおらず、薬もない。そんな絶望的な状況にもかかわらず、著者の開発した簡単な方法を実践することによって認知症お症状が早期に解消する人が続出している。認知症をもう怖がる必要はありません。脳は、加齢とともに次第に萎縮します。いわば自然な老化現象です。この脳の萎縮によって必ず認知症が起こるわけではありません。脳の萎縮がかなり進行しても、聡明な人は大勢いるのです。

よく行く喫茶店においてあったちらしに講演者が竹内先生と砥部病院の中城敏先生とあり、旧知の（先方をご存知ない）中城先生のお名前にひかれて1月14日、参加してみました。

なぜ1日1500ccの水で認知症が治るのか、理論の説明には何時間もかかる、まず実例をとということで水の摂取により認知症が治っていく多くの事例が紹介されました。宮崎県小林市では100%、症状が消えているとのことでした。



竹内先生のご経歴を拝見しますと、「1973年から特別養護老人ホームにかかわり、オムツはずし運動などを展開。NPO法人パワーリハビリテーション研究会理事長など多数の委員等を兼任。1941年生まれ」とあります。

なでしこ67号の良書ご紹介で取り上げた『10分後にうんこが出ます～排泄予知デバイス開発物語』に、おむつゼロ運動を展開されている施設が紹介されていますが、まさにそこでその運動を始められたのが竹内先生でした。

パワーリハビリテーションというのは、例えば膝が痛くて歩けない人に、膝にストレスをかけない特別に開発されたマシンを使って膝のまわりの筋肉を鍛えるのです。そうしたりハビリでデイサービスを運営している会社が全国で180店舗、早速、92歳の我が母は東温市にある店舗に通うことにしました。杖でよろよろ歩いていたという95歳のおばあさんが自力ですっすっと歩いているのを見ました。3ヶ月の成果とのこと。最初ネガティブであった母も、毎日娘に洗脳されて「よくなるかも」と思い始めたようです。脚がだんだん弱って立ち上がりが大変になっています。改善に期待を寄せています。

さらに水分効果ですが、母の場合、夕食を食べてウトウトすると、7時か8時に目を覚まし「今は朝だ」と思うことが最近頻発しておりました。1日500～600ccであったろう水分量を、湯飲みやコップを大きくすることで朝だけで500ccに。1日全体ではまだ900ccくらいですが、たちまちピタッとそういうことがなくなったのです。

拉致問題



1月25日の愛媛『正論』懇話会の講師は、拉致問題を最初に記事にされた元産経新聞記者の阿部雅美氏でした。40年前、氏がどのようにアベック失踪事件や拉致（その当時、このことばは使われてなかった）未遂事件に興味をもたれ、調査をされ、それが1978年の「サンケイ新聞」の一面記事になったのか、この1月7日から産経新聞に考証を連載されています。それは、小説よりも引きつけられる、息を飲む面白さ（不謹慎な表現かもしれませんが）です。

40年間いろいろな人の言論を聞いてきた、金正日が拉致を認めたとき、彼らの発言も変質した。その中で忘れられないのは、その年のお誕生日に皇后陛下がお述べになったおことばです、と紹介されました。

小泉総理の北朝鮮訪問により、一連の拉致事件に関し、初めて真相の一部が報道され、驚きと悲しみと共に、無念さを覚えます。何故私たち皆が、自分たち共同社会の出来事として、この人々の不在をもっと強く意識し続けることが出来なかったかとの思いを消すことができません。今回の帰国者と家族との再会の喜びを思うにつけ、今回帰ることのできなかつた人々の家族の気持ちは察するにあまりあり、その一入の淋しさを思います。

「相手がいかなる国であろうとも、どんなことをしても取り戻すのが政府の役目だ。それをしないのはどういうことか。メディアのありようもふくめて『拉致事件』に引き続き取り組んでいきたい」と締めくくられました。

一特定失踪者問題調査会 荒木和博代表

【調査会 NEWS2651】(30.1.30) <北朝鮮化>

アジア自由民主連帯協議会の会報「FREE ASIA」を読んでいて、あらためて中国における人権侵害の深刻さを痛感しました。生きた人間からの臓器狩り、漢族以外の民族への弾圧、そして漢族でも民主化を求める人には容赦なく行われる弾圧は想像を絶するものがあります。劉曉波氏の死はその象徴でもありました。これは天安門事件の後から悪化し続け、習近平体制になってからはさらに個人崇拜まで加わっています。

ある意味では中国が北朝鮮化してきたと言えないこともありません。改革開放のひずみを力で押さえ、また国民に幻想を抱かせることで体制を維持しようとしているのですから。ひょっとしたら金日成は草場の影で「トウ小平の奴、さんざん『改革開放しろ』と言ってたが、結局うちと同じになったじゃないか」と笑っているかも知れません。

こんな中国・北朝鮮を見ていると「やはり悪いことは悪い、正さなければならない」と、単純に思います。現実を認識するのと、現状を認めるのは意味が違いますから。北朝鮮は日本人をはじめ外国人を多数拉致し、自国民にも甚だしい人権侵害を行っているから許さないというだけのことかと。

そうしないと日本も北朝鮮化してしまうかも知れません。



【調査会 NEWS2630】(30.1.8) < 「近づかない！」 と言ったって >

日本海側各県の地方紙にこのような政府広報の広告が掲載されました。

<https://www.gov-online.go.jp/pr/media/paper/kijishita/761.html>

まあ、やらないよりは良いでしょうが、「近づかない！」「すぐ通報を！」と言ったって、由利本荘の 8 人は上陸して民家のインターフォンを鳴らしているのですから、正直「なんだかなあ」という感じですよ。

政府が情報を明らかにせずに、ただ「普段見かけない船や人を見たら、近づかない！すぐ通報を！」と言うだけでは何がなんだか分かりません。そもそも 11 年前の青森県深浦への 4 人漂着も一昨年の山口県長門市青海島への男性の上陸も、政府は情報を明らかにしないまま蓋をしています。

拉致問題も、何度も書いているように政府は少なくとも横田めぐみさん拉致について昭和 52 年（1977）11 月の事件の時点から北朝鮮による拉致だと分かっていました。めぐみさんの拉致から 2 カ月遡った 9 月には久米裕さんが拉致されており、このときは犯人も捕まっていました。おそらくそれ以前から北朝鮮が拉致をしていたことも知っていたはずですよ。当時は総聯も日本社会党も大きな力を持っていましたから猛烈な反対もあったでしょうが、情報を明らかにしていればその後の拉致は大幅に抑止できたでしょう。

漂着船がらみの事件は今後、ある程度の被害は覚悟しなければなりません。今、一人でも多くの国民が声を上げれば、被害を減らすことができるでしょう。報道関係の皆さんも、一般の皆さんもできるだけ情報を流し、関心を高めていただくようお願いする次第です。

以下に更新した漂着一覧を付けておきます。追加、修正情報があればお知らせ下さい。

《平成 29 年に入ってから北朝鮮船・船体の一部・遺体の漂着漂流》 H30/1/24 現在

1 月

1 日 新潟県糸魚川市筒石 木造船の一部

6 日 新潟県上越市柿崎区 木造船 1 隻

7 日 福井県小浜市犬熊 木造船 1 隻

2 月

7 日 島根県隠岐郡隠岐の島町神尾 木造船 1 隻

11 日 石川県金沢市 木造船 1 隻

15 日 京都府丹後町間人 木造船 1 隻

15 日 京都府舞鶴市瀬崎海岸 木造船 1 隻

3 月

8 日 島根県隠岐島町油井 木造船 1 隻

14日 石川県輪島市門前町 木造船の一部
 18日 石川県羽咋郡宝達志水町 木造船1隻
 22日 石川県羽咋市寺家町 木造船1隻 28日 京都府京丹後市 木造船1隻
 4月
 28日 秋田県男鹿市入道崎灯台付近 木造船1隻・遺体1体
 5月
 1日 北海道函館市函館港 木造船の一部
 2日 新潟県佐渡市石名地区 木造船1隻
 6月
 1日 新潟県佐渡市鷺崎地内 木造船1隻
 7月
 31日 島根県隠岐郡隠岐の島町福浦 木造船の一部
 8月
 9日 島根県隠岐郡西ノ島町三度崎 木造船1隻
 9月
 6日 青森県西津軽郡深浦町大間越 木造船1隻
 25日 北海道室蘭市東町 木造船の一部
 11月
 7日 新潟県佐渡市羽茂三瀬地区 木造船(長さ13.7メートル)1隻 船体にハングル表記
 20日 青森県北津軽郡中泊町小泊 木造船(長さ8.7メートル)1隻 船体にハングル表記
 20日 青森県西津軽郡深浦町大間越 木造船(長さ12.6メートル)1隻 スクリューやエンジンが
 残っており周辺で救命胴衣6個発見
 21日 山形県鶴岡市五十川八斗島南 木造船(長さ7メートル)1隻 船体にハングルや「89829」
 の数字が記載
 23日 新潟県佐渡市南片辺 木造船1隻 船体にハングルが記載
 23日 秋田県由利本荘市マリーナ 木造船(長さ20メートル)1隻 プレートにハングルで「チョ
 ンジン」と記載。生存者8名 内2名が近くの民家に行ってインターフォンを鳴らしたことで上陸
 が分かる(従って検疫を受けずに上陸した9。証拠品である船はマリーナに係留していたが県警が
 見失い、後に破片の一部を回収。
 24日 秋田県男鹿市宮沢 木造船(長さ7メートル 船首付近に「556-60756」と記載)1隻 白骨
 化した遺体8体 北朝鮮製たばこ等
 25日 新潟県佐渡市藻浦崎 木造船1隻・遺体1体 26日 北海道松前郡松前町小浜 木造船の一
 部(船首部分長さ4メートル 黒く塗られ数字のようなもの記載)
 27日 石川県羽咋郡志賀町西海 木造船の一部
 27日 石川県羽咋市 木造船1隻
 27日 青森県深浦町 木造船(船首に赤い文字で「2093」と記載)1隻 28日 青森県下北郡佐井
 村 木造船1隻 サイズ24センチ男物革靴(ヒールの高いシークレットブーツ様のもの)と英文の
 書かれたジャケット
 28日 北海道松前郡松前町松前小島 木造船1隻・生存者10名
 12月
 1日 青森県西津軽郡深浦町森山海岸 木造船1隻
 1日 新潟県佐渡市両津湾 木造船1隻
 2日 新潟県佐渡市小木江積海岸 木造船1隻
 2日 秋田県山本郡八峰町八森岩館付近海岸 木造船1隻
 4日 新潟県柏崎市西山町石地付近 木造船の一部
 4日 新潟県長岡市寺泊大和田 木造船1隻
 4日 新潟県西蒲区角田浜沖 木造船1隻
 4日 山形県鶴岡市温見米子漁港沖 遺体3体

- 4日 秋田県にかほ市海水浴場 木造船の一部・遺体1体
- 5日 新潟県佐渡市高千漁港 木造船1隻
- 6日 青森県西津軽郡深浦町入良川河口付近 木造船（「915430」と記載）1隻
- 7日 秋田県男鹿市五里合 木造船（「913300」と記載）1隻
- 7日 新潟県佐渡市北狄（きたえびす）地区海岸 木造船1隻
- 7日 新潟県佐渡市両津湾内 木造船1隻
- 7日 福井県坂井市三国町サンセットビーチ 木造船の一部
- 9日 新潟県村上市府屋海岸 木造船1隻
- 9日 新潟県佐渡市岩谷口海岸 遺体1体
- 10日 山形県鶴岡市堅苔沢海岸 遺体1体
- 10日 新潟県佐渡市石名沖 木造船1隻
- 12日 新潟県柏崎市荒浜 木造船1隻・遺体2体遺体は白骨化しており、服や身の回りの物も無かった。船はその後産業廃棄物として処理。白骨化した遺体は火葬後、無縁仏として埋葬。
- 12日 新潟県村上市沖 木造船1隻
- 13日 秋田県潟上市出戸浜海水浴場付近 木造船1隻・遺体2体
- 13日 秋田県男鹿市北浦入道崎 木造船1隻
- 13日 秋田市浜田 遺体1体
- 13日 新潟県村上市瀬波温泉海岸 木造船（「632-90452」と記載）1隻
- 13日 新潟県胎内市松浜海岸 木造船1隻
- 13日 青森県西津軽郡深浦町十二湖海浜公園 木造船（「912358」と記載）1隻
- 14日 秋田県秋田市雄物川河口近く 木造船2隻・遺体6体
- 14日 青森県深浦町白神浜 遺体1体 木造船の一部
- 14日 新潟県長岡市寺泊郷本海岸 木造船1隻・人骨5本
- 14日 佐渡市鶴ノ瀬鼻沖 木造船1隻
- 14日 石川県羽咋市志賀町 木造船の一部
- 16日 青森県深浦町田野沢 木造船（「547-66205」と記載）1隻
- 18日 佐渡市鷺崎沖 木造船1隻
- 19日 秋田県にかほ市飛字餅田海岸 木造船1隻・遺体2体
- 21日 新潟県佐渡市関岬 木造船（長さ11.6メートル幅2.75メートル 船首にハンゲル表示）1隻
- 21日 新潟東港沖18キロ 木造船1隻
- 21日 新潟県粟島浦村釜谷 木造船の一部（縦1.5メートル横1.2メートル）
- 23日 石川県志賀町 木造船（長さ約8.4メートル幅約2.2メートル 15日に金沢港沖を漂流していた船と同じ番号が船体に記載）1隻
- 24日 新潟県新潟市 新潟港沖12キロ 木造船1隻（21日のものと同じ可能性あり）
- 24日 山形県鶴岡市油戸漁港付近 木造船の一部・周辺に遺体4体
- 24日 山形県酒田市浜中 遺体（星型マークがバックルに付いた布製ベルト）1体
- 25日 新潟県佐渡市羽茂大橋 木造船（長さ約8メートル、幅約2メートル）1隻
- 29日 鳥取県鳥取市気高町奥沢見海岸 遺体1体（ハンゲルが書かれたタグのついた黒い長袖ジャージと長袖Tシャツ、ズボン下着用。身長約170センチ、頭部はほぼ白骨化）
- 29日 新潟県新潟市西蒲区越前浜海岸 木造船の一部（長さ3メートル幅1.6メートル高さ1.43メートル 煙突あり）
- 平成30年（2018）1月
- 4日 秋田県三種町釜谷浜海水浴場 木造船の一部（長さ約8.1メートル幅約2メートル 船底及びスクリーン）
- 5日 石川県白山市沖 木造船（長さ約13メートル幅約3.5メートル 船首にハンゲル）1隻
- 6日 秋田県由利本荘市松ヶ崎漁港 木造船の一部（長さ4メートル幅約2メートル 白地に赤の数字）

7日 京丹後市網野町 木造船（長さ約 10 メートル幅約 3 メートル ハングルのような文字の書かれた板が付近に漂着）1 隻
8日 新潟市西蒲区間瀬海岸 木造船（長さ約 5 メートル幅約 1.5 メートル）1 隻
8日 秋田県男鹿市野石申川海岸 木造船の一部（長さ約 7.7 メートル幅約 1.9 メートル）
1月 10日 金沢市下安原町安原海岸 遺体 1 体（年齢不詳顔などの一部が白骨化。黒色のジャンパーと青色のズボンを着町。身元や国籍の分かるものは身に付けていなかった） 木造船（遺体から 15 メートルの距離 長さ約 20 メートル 船尾にプロペラ 船体にハングルや数字などの標記見つからず）1 隻
1月 16日 1月 10日金沢漂着の木造船の中から遺体 7 体発見
1月 21日 新潟県粟島八幡神社から 200 メートルの海岸 木造船の一部（船尾 長さ 1.2 メートル幅 1.3 メートルのコの字型 赤字でハングル 2 文字が書かれていた）
1月 24日 石川県志賀町西海千ノ浦海岸 木造船（長さ 8.15 メートル幅 1.9 メートル高さ 1 メートル平底型 船体に白く 614 という番号記載 コールタールのようなもので塗装、傷み激しく長期間漂流したものと推定

【調査会 NEWS2650】 (30.1.29) <寺越武志さんのこと>

1月 28日に金沢テレビ（日本テレビ系）で「拉致と言えなくて～寺越さん母子の 55 年～」という番組をやっていました（下記アドレスの YouTube でご覧になれます）。<https://youtu.be/zeoQsrCMI3w>

この番組には私はまったく関わっていないのですが、お母さんの寺越友枝さんとは拉致としてクローズアップされた平成 9 年（1997）からのお付き合いで、その間本当に色々なことがありました。



番組の中でも出てきますが、家族会ができたとき、友枝さんは一度加入しようとしていました。しかし、初めて新潟での集会に出た後それをあきらめます。武志さんから「家族会に入ったら会えんようになる」と言われたそうですが、別のところでは政治家からの圧力もあったように聞いています。

その 2～3 年後だったか、当時救う会事務局長だった私は「すべてぶちまける」との友枝さんからの電話を受け、金沢にすっ飛んでいって大口英夫さん（現救う会石川代表）の協力を得て緊急の記者会見を開きました。ところが会見場で友枝さんは言葉を翻し結局何も語りませんでした。それはこの当時でも北朝鮮が拉致を極めて気にしていて、寺越武志さんが拉致被害者だとされることを何とかして止めようとしていたことを意味します。

ちなみに北朝鮮は拉致でなかったと「証明」するために寺越武志さんを著者にして、海難事故で北朝鮮船に救われた 3 人が北朝鮮で幸せな暮らしをしてきたというドキュメンタリー小説（？）を出版しています。タイトルは何と『人情の海』。この小説は私のブログで日本語訳がダウンロードできますのでご関心のある方はご一読下さい。

http://araki.way-nifty.com/araki/2005/05/post_978e.html

寺越事件は、本当は日本政府が当初から拉致だとして北朝鮮に対するべきだったと思います。ご家族とすれば一時会えなくなることは不満もあったでしょうし、マスコミなどで批判されたかも知れません。私も無責任なことを言う資格はありませんが、一緒に拉致された昭二さん、外雄さんのこともあるのです。やはり原則に基づいた対応であるべきでした。

結局足りなかったのは日本の側の（それはもちろん私も含め）、本当の意味で国家を、そして国民を自分の力で守るという意志だったのではないかと思います。もちろん過去形ではなく、これからでもその覚悟を持たなければなりません。

救う会愛媛

毎年晩秋から、椿祭りのおける救う会愛媛の拉致問題啓発活動に協力させていただくめぐす会の担当コマの人数を確保することばかり考えておりましたが、今回はそれがありませんでした。昨年2月、救う会愛媛の役員の方から「救う会とめぐす会は趣旨が違うから袂を分かっことにした」とお電話がありました。「めぐす会は会員に救う会の振替用紙を配るって募金を募るなど、熱心だがそういうことはやり過ぎだ。救う会は地道にこつこつ、末永く活動を続けていくところだ」とのこと。理解できません。救う会愛媛と「拉致被害者は一刻も早く取り戻すべき」という日本人の心情を共有できる日が来ることを願って止みません。



映画「南京の真実」上映会

1月13日（土）に砥部町文化会館で、45名のご参加を得て開催いたしました。カンパを含めた入場料62,000円から、会場費、ブルーレイのレンタル、ちらし印刷などの必要経費を差し引いた35,000円をチャンネル桜の制作委員会に協力させていただきました。

視聴者の感想をご紹介します。

☆当時の状況がよくわかりました。是非、NHKで放映される日がきてほしいです。☆満鉄が満州国発展の力だったのがよくわかる。工作のおそろしさがよくわかる。☆こういった事実を広く知らしめようとするチャンネル桜の水島社長の取組に敬意を表します。更なる啓発活動を期待しています。☆真実の記録を待ち望んでいました。御愛労に感謝します。☆日本人として真実の歴史を学び、他の人にも伝えていかなければならないと思いました。上映して下さりありがとうございました。☆ありがとうございました。日本は正義を成そうとしたと思いますが、それは、阻まれました。どんなに良いこと正しいことをしても、また、自己をまもろうと思っても、思っているだけでは成されず、力をもつことが必要なのだと知りました。

また、1月末現在、以下の会場での上映が予定されております。主催はすべて、愛媛偕行石鉄会（会長 重松恵三氏）でございます。

2月24日(土) 13:30~16:00 (開場13:00)
東温市中央公民館 2階会議室
入場: 1000円 学生無料
連絡先: 090-8971-7721 (青井)

3月4日(日) 13:00~15:30 (開場 12:30)
西条市総合福祉センター 研修室1
入場: 1000円 学生無料
連絡先: 090-1174-9637 (黒川)

3月21日(春分の日・水) 13:30~16:00 (開場
)
伊予市生涯学習研修センター さざなみ館
入場: 500円 学生無料
連絡先: 090-5916-6562 (森川)



3月25日(日) 13:30~16:00 (開場13:00)
松山市民会館 2階第4会議室
入場: 無料 (カンパをお願いします)
連絡先: 090-8971-7721 (青井)

《お願い》

みなさまの所属団体やお付き合いの方々にちらしをお配りくださいませんでしょうか。ご連絡いただき次第、すぐお送りいたします。また、「地元で上映会をしてほしい」という声をお待ち申し上げます。

☆☆☆事務局から☆☆☆

☆建国記念の日奉祝大会、映画「南京の真実」上映会、親学研修会のちらしを同封致しました。

★会費の切れる会員の方には払込用紙を同封しております。引き続きご支援下さいますようお願い申し上げます。年会費は2000円でございます。封筒のアドレスシールの住所のあとの数字は今まで会費を納入していただいた〈年と月〉を表しています。長期会員の方はおかげさまで数字が入り切りませんので、〈年〉のみ記載している場合もございます。



健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井美智子 〒791-0221

東温市上村甲218



電話 090-8971-7721 Fax 089-964-3903

<http://www.mezasukai.com/> メール michikoaoi25@yahoo.co.jp